

かなざわしてん たから じ お ようひん
金沢支店のお宝 (事務用品など) その1

明治42年 (1909年) ~ 昭和29年 (1954年)

鬼瓦

支店長宅や支店建物の屋根の一部に飾られていました。中央上部の「めだま」のようなマークは、「白」という漢字の古代書体の一種で、日本銀行の行章(マーク)です。



明治41年 (1908年)

旧店舗の様板

旧店舗の上様式で使用された様板。当時(6代)の日銀総裁(松尾臣善)や工事顧問の辰野金吾(東京駅の設計などで有名)の名前などが記されています。



昭和50年 (1975年) 頃まで

電信略語書

日銀本店と金沢支店の間で、重要な情報を電報でやり取りする際には、情報を暗号化していました。「電信略語書」は、その解説書ともいえるべきものです。



昭和50年 (1975年) 頃まで

巡回時計

警備員が夜間、建物の内外を巡回(見回り)する時に持ち歩きました。要所々に設置された鍵で巡回時間を記録し、宿直主任(夜間警備の責任者)が記録をチェックしていました。



昭和40年 (1965年) 頃まで

焼印・刻印

お金を収納する容箱(木箱)や容箱を載せるスキッド(木の板を組み合わせて台にしたもの)には焼印や刻印が押され、一目で日銀の物と分かるようになっていました。



焼印

日本銀行金沢支店と刻まれています。

明治42年 (1909年) 頃

秤桿

支店開設当時(明治42年頃)に購入した秤桿・分銅のセットです。金、金貨などの重さを量るのに使用していたと思われれます。



かなざわしてん たらから じむようひん
金沢支店のお宝（事務用品など） その2

年代：不明

鉛封器（旧）と封印

鉛封器は、例えば硬貨を麻袋に収納する際に、口を縛り上げて鉛で封をする時に使います。封印は、鉛がなくなった第二次大戦中に、鉛の代用で施封していた帯紙に押しました。



昭和50年（1975年）頃まで

番号札（旧）

窓口に昔使っていた番号札は真鍮製や木製でした。現在はプラスチック製のものを使っています。



年代：不明

店印（旧）と朱肉

日銀金沢支店には、店印、支店長印などが置かれ、用途により使い分けられています。



年代：不明

木杯

石川県に「明治財政史」を寄贈した際、県知事から返礼の品として頂きました。



年代：不明

銀杯

日銀金沢支店開設20周年（1929年）を祝い、中越銀行（昭和18年＜1943年＞北陸銀行に統合）の頭取より頂きました。



昭和30～40年代頃（1950～1970年頃）

事務服（現在は廃止）

平成10年中頃までは、女性職員用の事務服がありました。夏用（半そで）と冬用（長そで）の2種類に分かれています。



夏服



冬服